



# ジァス JIAS日本国際美術家協会

機関誌  
Vol.43

Japan International Artists Society

2018年

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町  
1-6-12 周方社ビル5F  
TEL : 03-3279-3101 FAX : 03-3279-3103

JAPAN : Shuhosha Bldg,5F 1-6-12  
Nihonbashi Muromachi Chuoku, TOKYO  
103-0022 E-mail : otoiwase@objias.co.jp  
<http://www.objias.co.jp/jias/>



ジャン・マリ・ザッキ

JIAS新代表  
馬郡文平

## 世界を舞台に、共に前を向いて。

JIASは世界をリードする国際美術家集団を目指します

●目次

P1 JIAS新代表就任について P4 JIAS2017年総会報告 P5 JIAS会員紹介 P6 アトリエ訪問 (ルカ・ヨラン/パトリシア・ベルキン)  
P8 展覧会報告 (日本・フランス現代美術世界展/イタリア美術賞点/パリ国際サロン/ル・サロン/サロン・ドトーヌ) P16 お知らせ

特別対談

2017年4月

JIAS日本国際美術家協会

新代表就任に寄せて



2017年11月パリで開催された「第31回パリ国際サロン」にて、本協会新代表に就任した馬郡文平氏とル・サロン名誉会長でありJIAS名誉顧問をつとめる画家 ザッキ氏がJIASのこれからについて語った。

**-Profile-** 馬郡文平

1965年2月、JIAS / 欧米 創立者馬郡俊文の長男として、東京・世田谷に誕生。父親の影響もあり、ジャンル問わずアートに興味をもち、自身でも取り組んだ時期を経て建築の道へ。現在、東京大学 生産技術研究所の特任講師として教鞭をとるかたわら、環境・エネルギーを軸に建築家、技術者として勢力的に活動中。美術賞展代表として、これまでにフランス、スペイン、イタリア、アメリカ、メキシコ、ポルトガル、ベルギー、オランダ等世界を舞台に活動。 現在 欧州美術クラブ / JIAS 日本国際美術家協会代表。

「ジャンルに関わらず、アートには“アンサンブル”が重要」(馬郡)

**ザッキ** 私は幼少の頃より軍人だった父について世界各地を巡りました。身を落ち着かせたパリで、街に溢れる近・現代芸術に圧倒され、中でも絵画への関心は高まるばかり。その関心を習得するため、クラシックな技法でまず大家たちの作品を模倣し、素描し続けたことを、まるで昨日のように憶えています。

**馬郡** ザッキさんもよくご存知のとおり父の多大な影響で(笑)幼い頃より絵画はもちろん、工芸、書、写真などジャンル問わずアートには興味津々でした。父はアートに関してはいつも真剣で、幼少の自分にも容赦なかったです(笑)。だからか、自分で取り組んだ時期もありましたが、結果的に、今の建築の道へ進みました。

**ザッキ** パリの近代美術学校(ESAM) 在学中、喜ばしくも19歳でル・サロンに初入選。学校を卒業した後はシャネルをはじめとする有名ブランド店の装飾家としてのキャリアをスタートさせましたが、仕事のかたわら、休むことなく創作活動と展覧会展への出品を続けました。なにせ、マルク・シャガールや趙無極(Zao Wou-Ki)、セザール、ベルナルド・ピュフェ、ロベール・コンパといった20世紀を代表する作家達の影響力は大きかった！その後、ル・サロン会長を経て、現在までル・サロンとは長い付き合いとなりました。そんな中、1986年ル・サロン展会場で、馬郡俊文氏と出会いました。ヨーロッパの我々からすると、遠い異国であった当時の日本から世界に向け、国際画壇に旋風を巻き起こすような作家達を輩出したいという壮大な想いを聞き、即、共感。思えばその日からJIASと共に歩み続けています。そして昨年、父・俊文氏と同じ志をもつご子息・文平さんと、また新たな一歩を踏み出すことに大きな喜びを感じています。

**馬郡** 私の肩書きは建築家で技術者ですが、自分の事を「ある種のアーティスト」だと思っています。例えば、絵画、工芸、立体、水墨、書などなど、いわゆるアートに携わる作家は自分自身と葛藤しながら孤高を持して作品に向かいますよね。対して、音楽などもそうだと思うのですが、私が取り組む建築はさまざまな意匠技術のアンサンブルによって作品を完成させます。制作工程は違っても、より良い作品を生むためには、この「アンサンブル」が必要なのではないのでしょうか。自身と葛藤しながら完成したアート作品は、JIASのような活動体を介し、作品群となり、組み合わせさせて展覧会という集合体をつくる。そして、互いに、また、客観的に評価され、刺激を受けあい、再び自身に帰化し、次の作品の糧となる。こういった一期一会の積み重ねがアーティストにとっての「アンサンブル」だと私は考えています。

**ザッキ** 私の場合、海軍専属画家として避けることのできない本場に孤独な活動も経験し、長いこと自身と葛藤しながら現在の抽象画と具象画の融合したような技法にたどり着いた。でも、未だ終点ではない。これからも自分との問答は続くことを確信しています。私はJIAS 会員だけではなく、作家に問われれば必ず「とにかく描いてください」と答えます。簡単なことではない事は誰よりも理解しています。が、とても重要なこと。作家の孤独な挑戦がきっとより良い作品をもたらすことを知っています。

**馬郡** 先日(昨年8月)のJIAS総会で「JIASのように、国際的に認知されているサロンと協業できる団体は大いなる繁栄が期待される。これまで世界中で重ねてきた実績を今後も積極的に継続し、JIAS が世界的に認められるようになる事を切に願う。共に前を向いて歩いていこう。」と列席者に声をかけてくださいました。私も同様に考えています。

「作家は自分と、そして自身の作品と対峙し続けなければならない」(ザッキ)

その為にも、まず、会員一人ひとりが、より良い作品を生み出す事が重要で、展覧会ではそれら作家と作品が多数集まってはじめて成立します。微力ではありますが、私も皆さんと一緒に世界を舞台に何が出来るか模索し、ひとつひとつ成果につなげていければと思っています。

**ザッキ** 最後に、長年をかけ確固たる友情を育んだ偉大な書家高田墨山氏をはじめ、歴史と多くの思い出を共に重ねた仲間達が旅立ってしまった事をとても悲しく思います。しかし、偉大な仲間達がいたからこそこの今であり、未来です。心より祈りを捧げると共に、新代表率いるJIAS の皆さんと前を向いて新たな歩みを進める事を、声たからかに報告しようと思います。



2017年11月17日 パリ国際サロン会場にて



ジャン・マリ・ザッキ 画家 JIAS 名誉顧問

1986年、初めてグラン・パレでJIAS/欧米の創立者馬郡俊文氏と会ってから長い年月、共に歩んできた。馬郡まりこ氏がその理念を継承し、昨年、新たに馬郡文平氏を代表に迎えた。JIAS/欧米のように所選ばず世界中のアート関

係者と協業できる団体は大いなる繁栄が期待される。これまでヨーロッパをはじめアメリカや中南米など世界中で重ねてきた実績と変わらぬアートの壮大な冒険が、新代表にかわっても続くこと確信している。

**-Profile-** 現在、国際画家として勢力的に活動するかたわら、フランス本国にてル・サロン名誉会長、サロン・ヴィオレ委員会名誉会長、フランス海軍公認画家協会会長ほかを務め、パリ国際サロン会長、新エコール・パリの浮世・絵・美術家協会会長も兼任する。レジオン・ドヌール勲章騎士章ほか数々の賞を受賞



シルヴィ・ケクラン 彫刻家 サロン・ドトローヌ会長

今でもドトローヌ作家と日本の作家の変わりぬ競演の場に出会う。これは40年前以上にさかのぼり、東郷青児とフランソワ・パロン＝ルヌアール\*の友情、故馬郡俊文、まりこ両氏による指揮、そして多くの作家達の尽力の結晶である。芸術に圍繞

はない。真の文化相互交流を担うJIAS/欧米はそれを証明する。明確な意思を持って、この素晴らしい活動を継続させ、我々との不変的な友好に尽力する、新たな指揮者馬郡文平氏にドトローヌ作家を代表して心よりエールを贈りたい。

\*パロン＝ルヌアール氏はJIASロゴの制作者でもある



エルヴェ・ロワリエ 画家 JIAS 名誉顧問

「第31回パリ国際サロン」の多様な個性を発する作品群にこれまで以上の高度なクオリティを感じた。新たな才能の挑戦。そこから発せられる刺激を作品に昇華し、更なる高みを目指す常連作家達。マニフィック！JIAS/欧米も若きリーダーを迎えた。新たな時代の幕開けである。在りし日の馬郡俊文が開いた国際舞台への道を、共により太く、より広く繋げよう。



パトリス・ド・ラ・ペリエール 仏美術雑誌編集長

多くの著名作家より支持をあつめ、黎明期に現在の基盤を作り上げた私の友人 馬郡俊文。偉大なる芸術愛好家であり、情熱家である彼の名前は、私と彼が支援した全ての者の心にまだ生き生きと残る。その父親と同じエネルギーをもった息子、馬郡文平がこの輝かしい冒険の松明を受け継いだ。決然。そして、その冒険は新しい章に進んでいく。



ドゥラルフ 画家 ル・サロン会長 アルキャピタル総裁

今後のル・サロンについて【「発見と共栄のサロン」として、芸術史に新しい角度からの視点を提案していく】と公言した。昨今、文化の異なる我々では気づき難い多くを表現した日本作品に出会うことがある。ひとつの新しい角度からの視点。新代表のもと、確固たる実績に基づく自信をもって、ル・サロンへの挑戦を心待ちにしている。



ルチアニ 画廊 ガラリー・デュ・マレオーナー

毎年、多種多様な作品との出会いがとても興味深い。長きに渡り、JIAS/欧米に協賛できていることを大変誇りに感じている。そして、新たな挑戦へ。若きリーダーと共に。

# JIAS日本国際美術家協会 2017年度総会報告

日時：2017年8月9日（水）11:00～12:15  
 会場：国立新美術館 講堂（東京都港区六本木）



- ◆総会の流れ
- ・ JIAS 機関誌 Vol.42 (2017年1月配布) 編集報告 (編集担当より)
  - ・ 2017年度活動ならびに会計報告 (事務局より)
  - ・ 前年総会時に挙げた検討課題への取り組みについて (事務局より)
    - 作品キャプション文字の拡大化
    - 事前アンケートの導入による世界展広報物の印刷部数調整
  - ・ その他 (事務局より)
    - 近年の展覧会への出品会員数の低下報告 / 積極的参加の呼びかけ
    - インターネットの活用強化報告 (スマートフォン向けHP開設など)
  - ・ 総会初参加会員 (7名) 自己紹介
  - ・ 総括 (議長・副議長より)

当日の出席者 34名。欠席連絡者 94名のうち議長委任 48名、代表委任 44名で、出席者ならびに委任数が過半数を超え、本総会は成立となった。まず事務局より、同年4月1日付で欧米代表馬郡まりこが会長に、馬郡文平が新代表に就任。同時に、JIAS 定款に則り、IAS 代表が馬郡文平に代わる旨が報告され、拍手をもって承認された。次いで、議長に筒井義明氏、副議長に船田春光女史が選出され、共に拍手をもって承認され、本会はスタートした。



新代表馬郡文平氏による挨拶



JIAS 名誉副会長ジャン・マリ・ザッキ氏



真夏日の中、全国から集まった 34名が出席した

会半ば、第 18 回日本・フランス現代美術展のために来日した JIAS 名誉顧問ジャン・マリ・ザッキ氏が参加。久しぶりの総会の変わらぬ様に会の活動力を再認識し、新代表馬郡文平氏にはエールを、会員には力強いメッセージを贈った。これをうけ、馬郡文平氏からは着任挨拶と今後への熱い想いが述べられた。

## 総括

◆副議長 船田春光女史——「私たちは JIAS 会員として共に活動できる機会を得た。その機会を大切に、総会や展覧会などより積極的に参加しようではないかと呼びかけた。さらに、インターネット活用強化について、自身でも実感する場面があるとコメント。「新しい仲間を迎えるには、新しいカタチの模索も重要」と事務局への更なる期待をのぞかせた。

◆議長 筒井義明氏——「昨今の国内で起こっている未曾有の災害被災作家へのお見舞いと労いの言葉が贈られた。ご自身も豪雨で被災した秋田に暮らすとし、「日常で様々な事を考え、感じ、影響を受け、それをどのように判断していくか。あがいては自身に取り込み、独創的な作品を創り続ける…そんな作家活動をしていきたいと思う」自身の作家感を述べ、会員各位を称えた。



副議長の船田春光女史、議長筒井義明氏

## Report

### 会員レポート 「2017年度 JIAS総会に参加して」

JIAS 会員 藤井七重

暑い中、皆さん遠方より集って、なごやかに進行し、JIAS 代表交代の説明と紹介が執り行なわれました。初代会長馬郡俊文氏とザッキ氏が初めてお会いした時の事、又、先輩達の「描きなさい!描くことよ!」の言葉が蘇り、新たな気持ちで会場を後にしました。



JIAS 会員 大和田明代

会議という場がこの上なく苦手なわたくしが今年も出席いたしました。議事を流れるように進めてくださる事務局、やわらかくもビシッと決めてくださる議長、副議長のおふた方もわたくしは気に入っております。総会に出席なさる会員の皆様は、おのおの個性豊かであられるに違いないのですが、とてもおだやかな流れに耳を傾けておられました。透明感のある、心地よい総会であったとわたくしは思います。列席されたザッキ氏のお人柄にもふれ、より一層にあたたかなそして緊張感のある総会でした。ありがとうございました、ムッシュ ザッキ。

# JIAS 会員紹介 ～合縁奇縁～

## 阿万 孝司

AMAN Koji 2013年入会

「彼ならではの造形的な力強さと豊かな詩情。印象深い作品の一つである。非常に質の高い造形と見事な光の描写。彼は偉大な詩人だ。」(ロジェ・ブイヨ)



世界農業遺産・五ヶ瀬町茶園風景 油彩

ル・サロン連続入選の他、パリ国際サロン6年連続出品など、欧州を中心に国際展での実績を重ねる。今後も世界を舞台にした活躍が期待される。2017年パリ国際サロンにてユニバーサル・デザール賞受賞ほか。

### -Message-



1941年生。定年を前に本格的に絵画を始める。公募展にて「木漏れ日」特選、以来樹々の光と影がテーマになる。神社境内、並木道、森の小道、農業と生活と多岐にわたる。カミュー・コロアの銀灰色の霞みがかつた幻想的な風景に憧れ苦戦中。手法的にはグリスユで、下書き着色が多く、明暗のメリハリに配慮。絵画に人を入れ風を入れ、動きのある画をめざしている。

## 仲 英治

NAKA Hideji 2011年入会

「彼の描き出す風景画は大いなる簡潔さ。極限まで簡素。しかしながら綿密に組み立てられている。表現と細部はとてつもなく詩情豊かだ。水平な部分、思慮深く秩序があり引き立てられたコンポジションがシニョールレアリスムな手法で調和がよくとれている。色の選択がとてつもなく独創的だ。」(シルヴィ・ケラン) コルシカ美術賞展準大賞、日仏世界展にて3度のサロン・ド・トローヌ受賞ほか。



ある風景 No.8 油彩

### -Message-

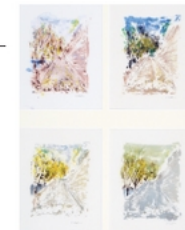


私の絵は心象風景で、故郷の山なみや旅先で見た景色の断片を組み合わせたもので、自分の感性に合った絵画空間を作っています。実際には存在しない風景なので、画面構成に苦慮しています。技法については、「自分が行きたい所へ行って、後からついてくるのがテクニックです」と、ある画家は述べていましたが、私もテクニックが先行しないように気をつけています。大切なのは、何を表現したいか、ということになると思います。

## HIRATA Tatsuya (BOSCO)

HIRATA Tatsuya ( BOSCO ) 創立会員

30年以上の長きに渡り、JIAS 協会と共に歩む。主に、パリ国際サロンや日本・フランス現代美術世界展を中心に数多く出品。パリ国際サロンにて創立会員、ル・サロンにて準会員も務める。



シリーズ「四季(セーヌ河畔にて) 版画

「このセーヌの四季へのオマージュに感謝を。パリという街は本当に日本と日本人に愛されている。」(ロジェ・ブイヨ)

### -独り言-



豊かであるといわれている国々が経済の発展と拡大に傾注し、それと共に機械文明の先取りが人生の全てであるかのように絶対視されている世の中で、人間の尊厳が軽んじられ、失われつつありますが、その他の国々では貧困に悩む多くの人が苦しんでいるにも拘らず、見捨てられたかの中であって、人間の尊厳を失ってしまえば、人生の全てを失うこととなるということを、私自身自覚し、世の中の激流に呑み込まれないようにとしております。

## 近藤 美峰

KONDO Biho 2015年入会

「彼女の技量を『卓越した』と評するのは最もであるが、私にはそれはもはや魔法のように思える。微妙な濃淡を使い分けて描かれた富士山の水墨は、ほとんど宗教的ともいえる精神的なインスピレーションによって描かれており、この類稀な女性画家の芸術の最高峰なのである。」(ロジェ・ブイヨ) パリ国際サロン個展部門等で数多く作品を発表。独自の目録の水墨表現により、パリをはじめ海外で高い関心と話題を集める。



LeMt.Fuji 水墨

### -私と水墨画-



実家はお寺・床の間にはいつも書や水墨が掛けられていました。水墨画を始めたのは45歳・ひたすら好きなヨーロッパの絵を自己流で描いていました。趣味とはいえず、純白の和紙と漆黒の墨との攻めぎ合いは、呼吸を忘れる程の緊張感・私の好きな時間です。今はテーマを絞って富士山一途。美峰の富士を描きたい。

## みやざき すうじ

MIYAZAKI Suji

「自然は自らを抑えているように見える。力強く美しい。」(ロジェ・ブイヨ) 長きに渡り JIAS 活動に力を注ぐ功労者のひとり。画家であり、また美術教育者として、後進の指導にも情熱を注ぐ。20年に渡りパリ国際サロンへ出品を連続出品。パリ、スペイン、アメリカ、メキシコ、イタリアでの個展出品など、精神的に作品を発表。今後さらなる国際的活躍が期待される。



カプリチオーソ 油彩

### -Message-



私の作品は海の幻視から生まれます。それは記憶の断片、遺伝子の奥底、神々の言葉として現れます。幻を描くには古今の素材を知り尽くし、己の技量を限りなく研ぎ澄ませなくてはなりません。これからも精進して当会に寄与できればと思います。

## 小村 順

KOMURA Jun 2007年入会

「山羊皮染色の傑出した熟練の技術。古き良き日本の姿から着想を得、その日本の芸術遺産を彼女ならではの方法で象徴化し、表現形態に変換し、雄弁に語りかける。豊かな色彩、確かな存在感は比類なく、感嘆するのみである。」



惜春 染色、ゴート

彼女の芸術は東欧の求道者や、西洋の文化的、芸術的慣習からも遠く離れたところで花開いた。」(ロジェ・ブイヨ) 独自の世界観は国境を超えて好評を博す。

### -Message-



初出品の頃から、安土桃山時代の小袖や能衣装の斬新で、おおかた、自由な発想の美しさに見せられ、それを作品の原点にし、花、蝶、鳥、魚等身近な自然をテーマに続けてきました。山羊革は表面に美しいシボがあり、ローケツ染の技法で意外な効果を得ることがあり、染める度に新しい発見を楽しんでいます。楽しみながら制作することが続ける為の大切なことと、これからも美しく、癒しをテーマに納得できる作品が出来るまで続けられたらと思っています。

# 国際作家交流 アトリエ訪問

パリ在住 プロ作家 2名のアトリエ訪問をご紹介します



## Atelier #1

次世代を担う  
ル・サロン作家

画家 ルカ・ヨラン

樹脂

銅版画も静物画(まるで写真!)も制作する。壁には裸体のラフスケッチから、濃淡まで描かれたデッサン画が何枚も貼られている。裸体を描くのは練習のため。早描きを心がけているという。他にも練習として、見知らぬ画家の作品やテクニックを徹底的に模倣し、描く。「友人のオスカーだよ」と人体骨格標本を紹介された。人物を描く場合、背景を想起しながら、その構図、骨格にいたるまで《オスカー》を使いポーズを研究しつつ、モデルにリクエストする。そして、納得できる表現技法としてルネッサンス期からある正統で、クラシカルな手法で描く。

17世紀に活躍したフランドルの画家・ボンネックが編み出したというその技法を彼は完璧に習得した。数百年に渡り、受け継がれるには明白な理由が存在することを確信したからである。「この手法で描くと絵の具がしっかり定着して、色褪れがない。微妙なニュアンスをつけたい時にも少し油をさすことで表現できる」と語る。

パレットや絵の具が無造作においてある机に物静かに向うと、絵の具をつくるデモンストレーションを始めた。乾性油に樹脂をゆっくり回し溶かす。ゆっくり時間をかけて。実際は2~3日寝かした後、光沢を出すための様々な顔料を混ぜて色をつくる。もちろんピグメントやチューブ絵の具も使う。作画の進行具合にあわせ、卵の黄身や乾性度の低い油を少しずつ混ぜていく。ニスを使わない。10年は描き上がった状態を保ち、その後も50~100年は剥離しない。時間が経てば経つほど光沢は増すという。「オランダ製のテレピン油は使い心地が良くてとても気に入っているんだ」と微笑みを浮かべた。

今も現役画家である父を持つ彼は、幼き頃より画家になることだけを考え、生まれ育った故郷ブルターニュにある父のアトリエで基礎を学んだ。そして、自身の表現を追求し、独自の作風を見出した。

圧倒的画力。現代的写実と神話的隠喩が融合する独自のコンポジション。作品全体の内から放たれた色と光沢。彼の溢れんばかりのイマジネーションは、緻密で丁寧な彼自身のパフォーマンスにより秀逸な作品に成る。今回、若くして既にフランス画壇に確固たる地位を築く彼のアトリエで我々はその片鱗を味わった。

銅版画も静物画(まるで写真!)も制作する。壁には裸体のラフスケッチから、濃淡まで描かれたデッサン画が何枚も貼られている。裸体を描くのは練習のため。早描きを心がけているという。他にも練習として、見知らぬ画家の作品やテクニックを徹底的に模倣し、描く。「友人のオスカーだよ」と人体骨格標本を紹介された。人物を描く場合、背景を想起しながら、その構図、骨格にいたるまで《オスカー》を使いポーズを研究しつつ、モデルにリクエストする。そして、納得できる表現技法としてルネッサンス期からある正統で、クラシカルな手法で描く。



ヨラン氏の作品が壁一面に飾られたアトリエ



プロ作家のアトリエで作家としての生き方にも触れた作家団



17世紀の手法で絵の具をつくるデモンストレーション



骨格に至るまでスティックに研究

## ルカ・ヨラン

画家/ル・サロン準役員兼会員、2017年ル・サロン金賞受賞



1981年ブルターニュ生まれ。画家である父のアトリエで創作を習う。2013年から連作《災いからの光》を開始。神話的隠喩と現代的写実が融合する独自の作風を確立。フランス内外の国際展でその圧倒的な表現力を高く評価され、数々の賞を受賞。ル・サロン金賞、銀賞、銅賞を受賞。2012年からル・サロン会員。2014年からは絵画部門審査員・準役員も務める。パリとブルターニュのアトリエを行き来し制作を続ける。



2018年 第19回 日本・フランス現代美術世界展にヨラン氏の作品出品が決定!



## Atelier #2

サロン・ドートゥヌ  
部門長

人形作家  
パトリア・ベルキン

パリ20区、アーティストが集うエリアに在る、独特な世界観が広がる空間が彼女のブティック兼アトリエである。室内に踏み入れた途端、話しかけてきそうな作品達が棚の上、壁や床、そこかしこに現れる。

彼女の作品は全て「糸」と「結び目」から成る。デッサン後、インスピレーションから広がるアイデアをひたすら結び繋いで形創る。幼少の頃より漠然と惹かれていた「アフリカ」を訪れた時、偶然に出会ったアフリカ伝統の仮面に心を奪われた。いつもベッドサイドに飾られていた「ユニコーン」のイラストが今でも彼女に独自のストーリーをもたらす。彼女の根源である。

彼女の独創性の要因のひとつは素材選び。結ぶのは糸、だからインスピレーションをもたらす生地を発掘すると何メーターも購入し、細く切り裂き、撚り、オリジナルの糸を作る。もちろん糸状になっているものは料理用でも釣り糸でも必要に応じて何でも取り入れる。使う糸によってその結び目は異なる抒情を織り、その組み合わせが万葉のリズムを編み出す。

アフリカを訪れた後、35年前に祖国フランスに戻ってからも今に至り、伝統の仮面を作り続けている。時として結び目は顔をはみ出し大きくなり、さらに結んで、結んで大きくなり、人物や人のような作品を繰り出す。「性別にはこだわらないが、感情を表現したいから顔や手の表現にこだわる。そのこだわり度合いにより制作期間はおよそ6~7ヶ月。」言葉のとおり彼女の作品達は皆、喜怒哀楽を超えた感情を蓄えている。



チャームな人柄に、国際作家同士の交流が深まった



紡がれる“結び目”

## パトリア・ベルキン

スクラブチャー・ヌワージュ(結び目の魔術師) サロン・ドートゥヌ ミュージアム部門 プレゼント



人形のスペシャリスト、パトリア・ベルキン。細み込みをつかい、作品それぞれに固有の表情を与え、繊細な作品を創造しつづける。彼女が数年を過ごし、劇的なインスピレーションを受けたアフリカ。その民族人形の手や表情など人間の伝達器官の表現に驚異的な情熱を注ぐ。  
~ラ・モンターニュ紙~



## 44年に渡るサロン作家、国際作家との国際交流によって生まれた【アトリエ訪問】



JIAS/欧州美術クラブは長きに渡り海外展覧イベントの一環として、文化交流を担う「現地協賛イベント」を企画・開催しています。中でも人気を博す「アトリエ訪問」は、海外の重鎮作家とJIASの間で培われた信頼関係により実現した研修のひとつです。初めて出会う異国の作家達を自らの「聖地」であり、独創性が生まれる制作現場《アトリエ》へ迎え入れ、惜しみなく教授してくれるアーティスト達。創作に対する姿勢を学び、芸術を生業とした日々の暮らしを肌で感ずる、これほど稀有な機会は、国際作家として世界を視野に活動を続ける上で、大きな糧となることでしょう。

※ホームページにてアトリエ訪問レポートと写真が見られます

# 第18回 日本・フランス現代美術世界展 ~サロン・ドートゥヌ特別協賛~ 展覧会報告

# The 18th France-Japan Multinational Contemporary Art Exhibition 2017

2017.8.9~8.20 東京 国立新美術館 3A



国立新美術館は夏休みシーズン中であり、連日多くの来場者を迎え大盛況であった

来場者は日本作品をはじめ海外作品 80 点以上の作品群を興味深く見入った

駐日キューバ共和国大使館クラウディオ・モンソン二等書記官、パトリシア・フレチジャ三等書記官、ヒホン市議会議長ガルシア・スアレス女史(通訳)、サロン・ドートゥヌ会長ケラン女史(通訳)、ザッキ氏、協賛会社各社

## ますます深化するサロン・ドートゥヌとの協力体制

国立新美術館にて開催されたJIAS 日本国際美術家協会主催の本展は、種別、技法、モチーフ、色彩に至り表現豊かな現代日本に根ざした邦人作家の作品 223 点を中心に、海外作品 85 点、総計 308 点による展覧となった。

とくにフランスからは特別協賛サロン・ドートゥヌよりドートゥヌ作家の新作 65 点が展示。国内外より称賛を集めた。会期初日に催された《オープニングレセプション》には、サロン・ドートゥヌ会長シルヴィ・ケラン女史、本展仏側名誉会長ジャン・マリ・ザッキ氏、次回美術賞展開催地スペイン・ヒホン市議会議長カロリナ・ガルシア・スアレス女史、本展協賛各社を来賓として招聘。また特別来賓として、駐日キューバ共和国大使館

クラウディオ・モンソン二等書記官、文化担当パトリシア・フレチジャ三等書記官に参列いただき、出品作家と関係者の130名にて華々しく開催を祝した。なお、サロン・ドートゥヌ作家をはじめ海外の参加作家達も駆けつけた。また、オープニングイベントの一環として催したカロリナ・ガルシア・スアレス女史によるスペイン、ヒホン市についての講演会は大変好評を博した。テーマは「街の未来を切り開くツールとしての文化」。芸術遺産の復興により、経済発展を遂げ、かつての誇りを取り戻したヒホンの、歴史や伝統・芸術と文化を現在に伝承する街並みや歴史的建造物が次々に紹介された。会期中には多くの関連イベントが開催され、連日来場者が詰めかける大盛況の中幕を閉じた。



国内外の308作品が集結。「毎年楽しみにしている」という愛好家の来場者も多く、国内外でも話題を集める



駐日キューバ大使館フレチジャ三等書記官 ヒボン関係者ガルシア・スアレス女史による講演



何度も展示会場へ足を運ぶケラン女史 文化・芸術施設が遍在するヒホン市を紹介



着物、工芸、立体、書など多彩な種別を歓迎している 仏作家の新作と邦人作品のアートを通じた饗宴

**次回展 第19回 日本・フランス現代美術世界展**

国立新美術館で開催。真の国際的派を目指す作家に人気の公募展。国際色豊かな展覧が話題!

- 会期: 2018年8月8日(水)~19日(日)
- 募集: フロ・アマチュア問わず。2点まで応募可。
- 種別: 油彩~書・工芸まで種別不問 (CG除)。

※公募締切は毎年5月15日(火)

初出品歓迎。どなたでもご応募いただけます

5/15 公募受付締切

## TOPICS>> 「寸評会」は創作の糧

~2017年8月10日(木) 国立新美術館 3A展示室にて開催~



国際基準における自身の立ち位置を知る貴重な機会として好評を博す

講評は、構図、色彩、技術等への称賛やアドバイスはもちろん、同作家の過去作品や著名作家を引き合いに出す等、幅広く、充実した内容で、ひとりひとりに丁寧に贈られた。参加作家からは「国際基準における自身の作品評価と真摯に向き合う事ができ、今後の制作の糧となりました」と次々に声が寄せられた。



## 会場での臨場感を共有した直接講評

海外美術関係者より会場での直接講評が贈られた本年。講評者に現役作家であり、フランスを代表する2つのサロンより、ル・サロン名誉会長・JIAS 名誉顧問を務めるジャン・マリ・ザッキ氏と、彫刻家でサロン・ドートゥヌ会長を務めるシルヴィ・ケラン女史、さらに、今年(2018年)6月に開催予定のスペイン美術賞展関係者ヒホン市議会議長カロリナ・ガルシア・スアレス女史を迎えた。



通訳を介し熱心にアドバイスを贈る講評者と、真摯に向き合う作家

## 講評者を代表して

「作品を前に臨場感を共有しながら個々の作家に講評を贈ることができた事は大変喜ばしく、貴重な体験であった。今後の活動に活かしていただけたら嬉しい。質の高い作品はさらに高い品質を招く。展覧会は自身を知り、自身と競い合う場である。これからも積極的な活動と成果を楽しみにしている。」

## Report 第18回 日本・フランス現代美術世界展とオープニングイベントに参加して

JIAS会員 上原 正治

当展は、展覧会に関係した国の大使館と、フランスのサロンの方々と強固な友好関係を築き上げている。アートを用いることで様々な国の町の歴史、社会、商業等文化についても学ぶことができ、今回はスペインのヒホン市についての話を聞く機会が提供された。このアートの場は、国際文化交流の場としても成立しており、アートが持つコミュニケーションの力の可能性を示している。これらを実現している公募展は、日本では当展だけである。展示作品の質は年々向上しており、若い世代の出品者もいることから、展覧会としても、今後更なる信頼の構築と成長が期待できる。



芸術を通して交流を深める他国籍作家たち



多くの外国参加作家も駆けつけた

# 第49回 欧美国際公募 イタリア美術賞展 展覧会報告

## The 49th Japanese Today's Visual Arts Exhibition in Italy 2017

2017.6.29～7.30 シチリア アグリジェント県ファヴァーラ市  
ファーム・カルチャー・パーク / パラッツォ・カフィジ / キアラモンテ城



### 歴史と現代がひとつに結合した“アート祭典”

毎年世界の文化的都市で催される「美術賞展」。2017年はイタリア・シチリア島南部、世界遺産・アグリジェント遺跡群に程近いファヴァーラ市がその舞台となった。会場は、かつてはシチリア貴族の古城で現在は市が保有する歴史的建造物「キアラモンテ城」、リノベーション後、現在イベントホールとして活躍するファヴァーラ領主カフィジ家館「パラッツォ・カフィジ」、そして過疎化にあった街を世界が注目する新進気鋭のアートスポットに成した「ファーム・

カルチャー・パーク」の個性的な3会場。歴史とモダンが混在する会場と、邦人作家178名276点の多種多様な作品群が織り成す様は、更に獨創性を演出し、見応えのある展覧会となった。遠く離れた日本からの作品群に興味津々の現地メディアからは取材が殺到。会期中には、メディアやインターネットを通じ知ったという多くの美術愛好家をはじめ市民やシチリア内外からの観光客が連日押し寄せ、大盛況の中、無事閉幕した。



高い天井のキアラモンテ城 総計276点の日本作品が市内の3つの会場それぞれを華々しく彩った



ファヴァーラ市庁舎への表敬訪問する作家代表団たち

### TOPICS>> アートのカで共に未来を

会期中は市内の3会場にて様々な展覧会関連イベントが催された

#### 熱烈な歓迎を受けた作家代表団

日本からは32名が作家代表団として現地に赴いた。市庁舎への表敬訪問を皮切りに、オープニング・セレモニーや現地市民との交流イベントに参加、満場の来場者、美術関係者から熱烈な歓迎を受けた。現地メディアからも取材が殺到し、ネットや現地メディアなどで大々的に報道された。

#### 交流イベントは国境を超える

その他、栗原光峰女史による書のデモンストレーションや「書」「折り紙」のワークショップを通じ、代表団は市民と直に触れあい、人間交流を実践した。「本展舞台上にファヴァーラ市を選んでいただけたことを心より光栄に思う。願わくはアートのカで共に未来を築いていければ」アナ市長よりメッセージを受け、これからの、途絶えることのない親交と再演を誓った。

#### 関係者による白熱の寸評会

寸評会では、アナ・アルバ市長、ファーム主宰アンドレア・ノレトリ氏、ローマ国立建築研究所准教授リオッタ氏、市建築家ジャコモ氏、出版社編集長アントニオ氏、ファーム・ディレクター フロリンダ女史ら6名を講師に迎えた。芸術・アートに長けているがそれぞれ立場の違うメンバーによる講評は、重層的で厚みに富んだものであり、代表団作家ひとりひとりに丁寧に贈られた。



アナ市長(左)とフロリンダファームディレクター(右)



作家代表団と本展は、新聞やTVに連日取り上げられ話題を集めた



市民と触れ合い両国間の親交を深めた



書のデモンストレーション



上/展覧会オープニングのキアラモンテ城にて関係者による寸評会 左上/若者に人気の施設として生まれ変わったパラッツォ・カフィジ 左中/ファーム内部に展示された作品群 左下/市の重要文化財で歴史的建造物の古城キアラモンテ城 上中/ファーム施設に掲げられた高田崇山氏のバナー 上右/多くの観光客も訪れるキアラモンテ城の中庭

### 次回展 ～第50回記念～ スペイン美術賞展 (2018年)

世界各地で作品を発表しながら見聞を広めたい国際派作家に人気。日本美を世界へ発信!

今回はアストゥリアス県ヒボン市にて開催!!

- 会期: 2018年5月28日～6月10日予定
  - 会場: ヒボン市文化センター (旧王立歴史博物館)
- オープニング 5/28 (月) 予定、その他関連イベント多数

2019年展のご案内は9月頃を予定



### Report 第49回 イタリア美術賞展 現地に赴いて

JIAS会員 吉村 忠司

小麦色に映えたシチリアの小高く波打った山々はとても美しかった。微妙な色の変化があつて島全体の風景を実に綺麗に映し出していた。移動バスからの眺めである。この地で展覧会が開催されていると思う心がワクワクしてきた。展覧会場は古いお城の中にあり、室内はモダンな美術館風になっていた。リニューアルしたこの古城がなんとも言えない風情を醸し出しており、実に味わいのある素敵な空間となっていた。壁に飾られた一連の作品を鑑賞しながら「ああ、ここに来てよかった」と思わずつぶやいたものである。その夜は広場のライブレストランで生音楽と共においしいイタリアビールが私を迎えてくれた。



60年ぶりという記録的猛暑だったシチリア島! 暑さもまた思い出に...



# 第31回 パリ国際サロン /ドローイングコンクール部門 展覧会報告

# 31em Salon International de Paris / Section Concours Drawing 2017

2017.11.17~11.19 フランス パリ  
エスパス・コミヌヌ / ギャラリー・デュ・マレ



錚々たる芸術関係者を筆頭に100人以上のパリジャンが集ったコミヌヌ会場のベルニサーージュ

画廊の顧客も大勢集まるマレのベルニサーージュ

## TOPICS>> 同じ地で定期開催する“サロン”だからその特長

### 新時代の広報！SNSによる拡散の力

現地情報誌、街頭ポスター、招待状、サロン・ドートゥ会場で広報など、様々なメディアを活用しパリ市民に広報を続けてきたパリ国際サロン。近年、現地のよりアートに関心の高い市民をターゲットにPRを展開する。連日数百の「いいね！」とメッセージも数多く受け取った。定期的に「パリ」で開催する本展だからこそ、新たなチャネルを活用した広報に今後更なる可能性を感じる。



ギャラリー界隈を中心にパリ市民42万人超をターゲットにPR

### 人気の個展部門。カタログによる広報も好評

作家の世界観を発揮できると、回を増すごとに人気を博すミニ個展部門。作家のプロフィールと全作品をフランス語で紹介掲載した現地広報用カタログは、特にギャラリー顧客に好評。SNSを活用したデジタル・カタログ風紹介もありとなり、会場で多くの質問が寄せられた。



SNSで紹介される個展作家

フランス語で制作された個展カタログ

### プロ作家も憧れる本展協賛画廊「ギャラリー・デュ・マレ」

アートシーンに新潮流を発信しつづけるパリ屈指のアートエリア「マレ地区」でも有数の企画画廊として君臨する「ギャラリー・デュ・マレ」。本展においては会場提供のみならず、広報、作品販売においても全協賛体制で臨んでいる。その影響もあり、作品販売に関する問合せも相次ぎ、最終的に40F 油彩作品をはじめ数点が販売成約をみた。作品販売については、少しずつでは歩みを進めている。



一流画廊が軒を連ねるマレ。顧客からの信頼も厚い

## パリで30年以上続く、日本作家による唯一無二の“サロン”

2017年11月17日(金)、ピカソ美術館やカルナヴァレ博物館をはじめ著名なミューゼや劇場が密集するパリ随一のアートスポット、パリ3区マレ地区に位置する2会場エスパス・コミヌヌとギャラリー・デュ・マレにて、第一線で活躍する美術関係者と多くの来場者に祝されながら本展は開幕した。本サロンを牽引する会長 画家ジャン・マリ・ザッキ氏と副会長 画家エルベ・ロワリエ氏の作品を特別展示として迎え、国際画壇に真価を問う日本作品143名184点が華々しく展覧された。ベルニサーージュには、会長、副会長に加え、審査員兼講師を担う仏美術雑誌ユニベール・デザール編集長パトリス・ド・ラ・ペリエール氏、特別来賓としてル・サロンより、ドゥラルフ女史、副会長クリスティヌ・オベルチュール女史、同じく役員ルカ・ヨランソン氏など、JIAS/欧美と理念を共有し、長年の親交で結ばれた数

多くの美術関係者・現地作家らが列席。開催に併せ来仏した出品作家代表団と合流し、親睦を深めた。現地美術関係者の招待客、毎年の開催を心待ちにしている美術愛好家のみならず、雑誌やインターネットを介して、初めて足を運んだというパリジャンからも多数来場し、大変な賑わいをみせた。寸評会では、ザッキ氏、ロワリエ氏、ド・ラ・ペリエール氏、ドゥラルフ女史が共演。参加作家はフランス画壇をリードする4名の視点から重層的な講評を得る稀有な機会に恵まれた。会期中、来場者からは「才能ある日本のアーティストへ。ブラヴォー！」「和の精神が宿るテクニックとテーマが素晴らしい！」「ハイクオリティ、感動した」など様々な賛辞が寄せられ、惜しまれつつも3日間の会期を終了した。



上・右/ 感度の高いパリジャンが集まるエスパス・コミヌヌ  
下/ヴォージュ広場前の有名画廊 ギャラリー・デュ・マレ



**次回展 第32回 パリ国際サロン (2018年秋~冬季)**  
パリ画壇で更なる地位向上を目指す「推薦展」のサロン。  
公募部門「ドローイング・コンクール」も開催予定  
(規約配布は夏頃予定)



秋のパリでは星の数ほどあるサロンを愛好家は渡り歩く。毎回楽しみに訪れているパリジャンや広報で誘われた芸術愛好家が次々に来場。所々で美術談義が交わされ熱心に鑑賞する様子がみられる。

## Report 第31回 パリ国際サロン 現地に赴いて

JIAS会員 篠原文子

「エスパス・コミヌヌ」会場は、多くの美術愛好家であふれていた。寸評会では、フランス画壇の巨匠ザッキ氏、ロワリエ氏、ドゥラルフ女史、ペリエール氏から、作品を前にして具体的に丁寧なアドバイスをいただいた。このような機会に恵まれたことに驚き、感謝の気持ちとともに心に響いた。翌日は、ル・サロンの誇れる若き画家ルカ・ヨランソンのアトリエ訪問に出かけた。精密かつ平滑、そして光沢ある油彩技巧を、レシビと称し美演して見せていただき、画溶液についての認識が変わってきた。夕方から、ギャラリー・デュ・マレには来場者があふれ、充実した個展部門の作品に見入り感嘆の声があがった。お互いに友好を深めいつまでもにぎわっていた。



芸術論を語り合い知的な会話を楽しむのがパリのサロン流!



# ル・サロン 2017 展覧会報告

(主催：フランス芸術家協会)

2017.2.14~2.19 フランス  
パリ グラン・パレ



次回ル・サロン応募締切は2018年3月30日まで！  
会期は18年秋もしくは19年2月予定

当初、2016年秋季開催予定だったが、2017年2月に「ル・サロン2017」として開催された。

## これまで以上の厳しさと公正さをもって現代アートをリードする「ル・サロン」

ル・サロンは第227回展を大盛況で開幕したことをうけ、以下のコメントを寄せた。

【本展はこれまで以上に成熟度を増した。出展作家と作品に対し、フランス流の質と技量の高さを『ル・サロン』の名をもって証明する。そして、今後も“発見と分かち合いのサロン”として、芸術史に新しい角度からの視点を提案していく。】

この発信は、芸術史を彩ってきた偉大な作品や作風に敬意を表しながら、その時代に活躍するアーティストらの独創性を尊重してきた“世界最古のサロン”ル・サロンが、21世紀の現代アートの世界においても指針の一つとされ、欧州に留まらず世界各国からの夥しい数の挑戦に対し、今まで以上の厳しさと公正さをもって、「ル・サロン」を継続することの意思表明と受け止めた。

本展は例年の秋季より2月に会期を移し、「ル・サロン」をはじめと

する4つの歴史的サロンが一堂に会す「アール・キャピタル」としてパリ・グランパレにて開催された。開放的で、光が降り注ぐ会場内、赤い絨毯上に展開したル・サロン展には絵画をはじめとする637名の国際的実力作家作品が集結。ベルニサージュには作家や美術関係者らおよそ12,000名が参加、大いに美術談義に花を咲かせた。

一般公開となる4日間には、エントランスホールのチケットカウンターを先頭に長蛇の列が途絶えることがなく、最終的に約36,000名が足を運んだ。

会場内は常に詰めかけた来場者と世界中で活躍するアーティスト達の秀逸な作品群に注がれる熱い視線と高揚感で満ち溢れていた。その様子に、町をそぞろ歩くには寒さが厳しい2月のパリ、芸術をこよなく愛す市民にとって、大いなる楽しみが増えたに違いないと確信した。



会場 パリ グラン・パレの入り口には連日長蛇の列が



アール・オン・キャピタル内のル・サロンブース



陽光降り注ぐグラン・パレでは4つの統合サロンが同時に開催された



340余年という最古の歴史と伝統を持つフランスでも著名な公募展



多くの作家が挑戦し、世界中の愛好家が集う



いまだからこそ正統派テクニックに基づく具象写実の奥義を尊ぶ



# サロン・ドトーン 2017 展覧会報告

(主催：サロン・ドトーン協会)

2017.10.11~10.15 フランス  
パリシャンゼリゼ通り特設会場



次回サロン・ドトーン応募締切は2018年2月9日(金)まで！  
会期は18年10月10日~14日予定

マロニエの並木道「シャンゼリゼ通り」の起点を成すコンコルド広場からプティ・パレ間に、今年も大パビリオンが出現した

## ますます世界の芸術家たちが集うサロン・ドトーン。日本作家への期待も膨らむ

例年より暖かな秋空の下、パリ・シャンゼリゼ大通りの起点となるコンコルド広場からプティ・パレ間に、今回も特設大パビリオンが出現した。中に踏み入ると、先駆的表現の模索と変幻的コンポジションにより、創造性と生命力に満ち溢れたアーティストたちの、この年の最も精良な作品約1,000点が前方に展開する。肩を並べた日本作品の、日本古来の精神的土壌に根ざしながら、現代的感性を蓄えた様はドトーン作家・関係者をはじめ多くの来場者を魅了した。ベルニサージュには20カ国を超える駐仏大使が訪れ、本サロンの国際的地位の高さを改めて証明することとなった。日本国大使木寺昌人氏も特別来賓として来場、ドトーン関係者も驚嘆する現代美術に対する深い造詣を以て、日本作品一点一点を丁寧に鑑賞した。ケクラン会長による開会のスピーチでは、一堂を埋め尽くした関係者・出品作家らと共に開催の喜びを分かち合い、また、国際展を共に成す日本作家らに言葉（以下）を贈った。

【同じ理念をもつ同志として欧州美術クラブとサロン・ドトーンは40余年に渡り友情を深めてきた。毎年、高名な国立新美術館で開催される『日本フランス現代美術世界展』では、その理念に共感し集った国際作家のより精選された作品が競演する貴重な舞台が演出され、連日大勢の来場者を魅了している。本サロンでもその一部を展示できる事は大変な名誉な事である。】

現地を訪れた日本作家代表団13名は、シルヴィ・ケクラン会長、ベルナール・ブシュ絵画部門プレジデント、ロベール・モレル同部門プレジデント、パトリシア・ベルキン ミクストメディア部門プレジデント他、ドトーン作家らと親交を深めた。代表団は翌日、ベルキン女史のアトリエを訪問。イベント最終日の夕食会ではケクラン会長、アニ・ショレ事務局長らの歓迎を受け、夜遅くまで歓談。ケクラン会長より唆暖に富む寸評が贈られ、現地協賛イベントの全工程を終えた。



「VIPベルニサージュ」には20カ国を超える駐仏大使が来訪した



JIAS/欧美スタッフ、ケクラン会長、木寺大使ご夫妻



木寺昌人日本国大使も日本人作品一点一点を丁寧に鑑賞



木寺昌人日本国大使も日本人作品一点一点を丁寧に鑑賞

## Report サロン・ドトーン2017 現地に赴いて

JIAS会員 瀬野 清

たくさんの作品に感激し、強い刺激を受けることができました。なかでもパトリシア・ベルキン氏の作品は、ドトーン会場とアトリエ訪問で見せていただき、アフリカ彫刻を想起させるようなエネルギーと独創、インスピレーションのすごさを感じました。また人と鳩が見事一つに調和したケクラン氏の石彫は、心の奥深く、訴えるものが伝わってきて感動しました。多くの素晴らしい作品の中で、今の自分の作品がどれほどのものなのか、何が足りないのか、直接自分の目で確かめ、実感できたことは、何よりも良かったと思っています。





## スマートホン用ホームページ開設



2015年のホームページリニューアルに続き、スマートホン専用サイトがオープンしました。また、各展覧会専用のfacebookアカウント開設などにより、海外での展覧会情報がSNS上でリアルに反映され、現地へ赴けない作家の方にもより身近に体感できるようになりました。JIAS日本国際

美術家協会はこれからも、日本芸術を愛する世界の愛好家と、国際派として芸術を世界へ発信するアーティストの架け橋となるべく、時代のニーズに合わせた広報活動を続けていきます。

## 2018年活動スケジュール

### JIAS海外活動

※予定事項は変更になる場合もございます

●～第50回記念～欧米国際公募 ス페인美術賞展 (JIAS 共催)  
於：アストゥリアス州アストゥリアス県ヒホン市  
ヒホン市文化センター (旧王立歴史博物館)  
会期：2018年5月28日(月)～6月10日(日) 予定

●第32回パリ国際サロン (JIAS 協賛)  
於：ギャラリー・デュ・マレ、エスパス・コムニス予定  
会期：2018年秋～冬季予定

### ＜その他 JIAS 関連活動＞

●ル・サロン2018 (主催：フランス芸術家協会)  
於：パリ市 グラン・パレ  
会期：2018年2月13日(火)～18日(日) 予定  
※ル・サロン2019 (国内応募締切：2018年3月30日(金)迄)

●サロン・ドートヌ2018 (主催：サロン・ドートヌ)  
於：パリ市 シャンゼリゼ通り 特設会場  
会期：2018年10月10日(水)～14日(日) 予定  
※サロン・ドートヌ2018 (国内応募締切：2018年2月9日(金)迄)

●NEPU 活動  
NEPU 代表作家の国内外広報、海外での講演会活動

### JIAS国内活動

●第19回日本・フランス現代美術世界展 (JIAS 主催)  
於：東京 六本木 国立新美術館 3A 展示室  
会期：2018年8月8日(水)～8月19日(日)  
公募締切：2018年5月15日(火)

●JIAS2018年総会  
於：東京 六本木 国立新美術館 3A 展示室  
会期：2018年8月8日(水) または9日(木) 予定

●JIAS/ 欧州美術クラブホームページ運営・管理ほか

## チャリティー・プロジェクト報告

陸前高田の絵の好きな子ども達へ画材を贈る

2017年8月、国立新美術館にて主催した「第18回日本・フランス現代美術世界展」受付にて募金箱設置。社会福祉法人陸前高田保育協会を介して5カ所の保育園に750冊のスケッチブックを寄贈しました。2011年から継続的に続けているこの活動に、今後とも皆様のおたのしみご支援をお待ちしております。

【陸前高田の絵の好きな子どもたちに画材を送るプロジェクト】  
銀行振込・郵便振替・現金書留にて受付しております  
★銀行振込：●みずほ銀行 日本橋支店  
 ① 1634027 口座名 欧州美術クラブ  
 ●三井東京UFJ銀行 日本橋支店  
 ② 0128429 口座名 欧州美術クラブ  
★郵便振替：記号 10100 (番号) 77876481 欧州美術クラブ  
★現金書留：欧州美術クラブ「陸前高田の絵の好きな子どもたちに画材を送るプロジェクト」宛



## 会員個々の活動紹介

JIAS 日本国際美術家協会のホームページ「会員個々の活動報告」欄にて、会員の個展等の告知・広報が可能です。個展開催の2～3週間前までに事務局へ掲載希望の旨、をお知らせいただけますと、無料で掲載が可能です。どうぞご利用ください。



JIAS日本国際美術家協会HP

## JIAS 新会員 (2018年入会)

※会員名簿はJIASホームページから閲覧できます。  
[http://www.obijias.co.jp/jias\\_jst/](http://www.obijias.co.jp/jias_jst/)

- ・加来真秋 ・松本真奈美 ・太田士朗 ・高橋文子
- ・ココア ・野上恵子 ・清水美奈子

## 2018NEPU 代表作家

Les représentants UKIYO-É 2018

前年新工コールドバリ浮世・絵美術家協会 (NEPU) が協賛する展覧会にて NEPU 賞受賞作家は、翌年度の NEPU 公認代表作家として、1年間、国内外にて広報および出品招待されます。18年 NEPU 代表作家には5名が選出されました。



## 訃報

2017年5月、長年に渡り JIAS / 欧米の活動に尽力くださいました書家 高田墨山氏のご逝去されました。氏は創立者 故馬郡俊文と共に数多くの国際展覧会で活躍。海外展でも現地にも進んで赴き、書の実演で多くの観客を魅了されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



★機関紙へのご協力お待ちしております。  
ご意見・感想・取り上げて欲しい企画など、お気軽にお寄せください。

## 編集後記

●早いもので欧美とお付き合いも今年で33年目になりますが、今年からは佐藤喬さんに代わって、私、坂本龍彦がJIAS 機関誌の編集人となりました。編集人とは申しまして実際にご苦労なされているのは事務局スタッフの皆さんで、煩雑な作業を通してよくこまめなサポート頂きました。これには本当に頭の下がる思いが致します。誠にありがとうございました。また、私は名ばかりの編集人に過ぎませんが、この機関紙が少しでも会員の皆さんの活動の一助となり、JIAS が名実ともに世界をリードする国際美術家集団へと成長して行きますことを強く念じております。今後ともよろしくお祈り致します。  
2018年1月17日 (坂本龍彦)

●より良い機関紙作成を目指し、編集長坂本氏とともに新しい機関紙を作成しました。今後も総会等を通じてより多くのアイデアを募り JIAS の活動普及に繋げていければと思います。(事務局・T)  
●日頃、会員の方と会ってお話ししたりする機会がありませんでしたが、今回、新代表と編集長を迎えたタイミングが偶然重なり、本紙について議論する機会に恵まれました。伝えたい事ははっきりと、メリハリをもって、読み易く、少しでも興味をもって読んでいただければ幸いです。そして、会員の皆様がこれまで以上に積極的に活動参加いただければ、さらに充実した内容を発信できると信じています。(事務局・A)

## 資料請求

ご出品について

本誌に掲載の各種公募展へご応募・出品をご希望の方は、ホームページまたはお電話等にて、お気軽に規約・資料をご請求ください(無料)。お問い合わせは JIAS 事務局まで。